國土計畫と國立公園と道路

田村剛

國立公園は國家の理想に基いて設けられたる國の文化的施設の一つである。交通、通信、軍備、教育、産業等各般に亘りて國家の施爲すべき事業は頗る多く、そのために國土の利用上に於ても、夫々用途に從ひ土地の割當卽ち地割を必要とする。都市に關して都市計畫がある如く、國土に關しては國土計畫が必要となる。國土の合理的利用體系を整備することは頗る緊要のことである。恐らくは此種の事業は內閣あたりで統制處理すべき事務であつて、內務、農林、商工、遞信、鐵道、文部等各省所管の事務に亘る重大問題である。例へば河川の利用に關しては、屢々交通、運搬、水力電氣、灌漑、養魚等の諸問題が紛糾して內務、農林、遞信三省に關する複雜なる難問題を惹起することがある。それに此頃では風致と天然紀念物等の關係で文部省の所管事務にも觸れ、最近國立公園運動が擡頭してからは內務省は水利と風景とに關して二重の關係を結ぶやうになつた。かうした水利問題に關しての解決は、國土計畫の根本理想から出發して公正なる裁斷を下すやうにしなければならぬと思ふのであるが、今日はその適當なる解決の方法がない樣な有樣である。從つて此種の問題に逢着する場合は、力づ

くで最も強力なる背景を有する事業が專横を極めるといふ實情にあるやうに見えるのは、吾人の甚だ遺憾とする所である。

例へば個々の事業に就いて水力電氣と風景と何れが重いかと言へば、それは一概に言ふことは出來ない。而して國家永遠の理想より見る時、かけがへのないやうな風景、卽ち國寶とも言はるべき風景をば、是非共保存しなければならぬのである。全國的に見てある種の風景型式を代表して唯一のものであると云へるやうな場合には、その風景の保存は絕對的なものとなり得る筈である。かうした考へ方が今日の日本の現狀では、尙ほ行はれてゐないのである。

されば吾々の考へでは一見緊急を要しないやうに見える國立公園とか天然紀念物とかの如き文化的使命を有する事業に對しては、政治的には格別な保護を與へるやうにして欲しいものと思ふのである。

さて國立公園の設定は最も新らしく發達したる國家的事務であつて、これに對して社會は今日尙ほ十分なそして正しい理解をもつてはゐないのである。國立公園の施設に對しては爲政者は一般の注意を拂つてほしいのである。卽ち國土計畫の理想よりすれば、都市に於ける公園と同じく、今日直ちに必要なる程度にこれが設定を爲し、他日これが施設の充實に傾倒すればよいのである。卽ち國土計畫上國立公園として適當なる土地に對しては、先づ優先權を認めて、その土地の保留風景の保護を講ずるやうにしたいのである。

幸にして此程我國では十二箇所の國立公園が指定せられる運びとなつたのであつて、國立公園施設はその緒に着いた次第である。

而してこれが區域の設定計畫の樹立等に至りては、國立公園の限定的又は選擇的本質に對して注意を拂ひ、他の事業は最大の讓歩をなして然るべしと思ふのである。このやうな考へ方の誤つてゐないといふことは、恐らくは國土計畫の觀念を以てする者には、容易に首肯せられることではないかと思ふのである。

さて次に國立公園は一國の交通政策と最も緊密なる關係を結ぶべきものである。國立公園は鐵道網並に道路網と直接に聯絡すべきものである。國立公園を最も容易に、換言すれば少額の經費と短時間で利用せしめようとすれば、交通施設を完備するの必要があるのである。これに就いてもやはり國土計畫の理想に基いて鐵道網や道路網を充實すべきである。それは恰も都市計畫に於ける公園と道路及軌道の關係に似てゐるのである。

さて國立公園内には鐵道や電車を乘入れることは決して好ましいことではない。アメリカ合衆國に於ても國立公園内には絶對に軌道や索道を許容しない方針を採つてゐる。然し國立公園の入口へは是非共國の交通幹線として鐵道や電車を結びつけたいのである。かくして園内の交通は專ら自動車道路によることゝする。我國の國立公園中阿寒、阿蘇の如きは現に鐵道により横斷せられてゐるが然しその風景の核心部は幸にして隔離せられてゐるので、さほどの不快もないのである。

園內道路に關しては、國立公園の集團施設地區等へは是非共自動車道路を結びつける必要があらう、そしてかうした道路は恐らくは主として道路法による道路として施行せられる見込である。もとより公園法により道路が造られぬこともないが、かうした場合にはなるべく道路法に委ねたゞその外觀に就いては風致上の注文を容れるやうにするのが最も穩當のやうである。

尙ほ此際關聯して考へられることは、公園區域外に於ける景勝地との聯絡の問題である。國立公園は觀光遊覽の中樞であるが、その凡てではない。從つて國立公園を中心にして附近に同一觀光系統に屬する大小幾多の景勝地が存する筈である。かうしたものを鐵道や道路で結ぶことは頗る重要なことである。從つてかゝる場合には國土計畫上に於て觀光系統の觀念に立脚して立案することの必要を認めるものである。此種の鐵道や道路は觀光が主目的であるから、その施設經營上には十分享樂的な考察を加へねばならぬと信ずる。かうした餘裕ある考へ方をすることには、今日我國民はまだ十分慣熟してゐるものとは言へぬのである。その結果が世界の二大風景國とも許されるスキスと日本との風景の差異となつて現はれるのではないかと思ふ。日本の風景はスキスに比べて決して劣つてゐるとは考へないが、その風景を尊重する思想がスキスほどに國民常識として發達してゐないことを認めざるを得ぬのである。

要するに道路は決して實用のためにのみ存在するものではなくて、鑑賞享樂等文化的使命を果すためには、最も重要なる役割を演ずるものであることに留意したいのである。